

## がん教育



本日6校時に2年生を対象に「がん教育」の授業を、東京都医師会・渋谷区医師会から川上 一恵 先生（小児科医 かずえキッズクリニック院長：渋谷区幡ヶ谷 3-81-7 <http://kazue.kids.coocan.jp> 素敵なWebサイトですので覗いてみてください！）に来校いただきました。

がんという病気・日本のがんの現状・がんの発生と進行・がんの予防・検診の意味・がんの治療で大切なこと（標準治療）・がん治療の支援・がん患者の思い・がん患者と共に生きる社会・・・幅広い内容で「あっ」という間の50分間で、様々な投げかけがあり「考える」ことの多い時間をみんなで共有できました。

また、情報を収集するときに大切な事「誰が・いつ・何を根拠に」を確認することなど、様々なヒントもいただきました。

さらに、お話の中で多くの書籍も紹介いただきましたので・・・お話にあった（校長室でも紹介いただきました。）3冊を紹介します。

## 「はたらく細胞」清水 菫 講談社

人間1人あたりの細胞の数、およそ37兆個！そこには細胞の数だけ仕事（ドラマ）がある！ウイルスや細菌が体内に侵入した時、アレルギー反応が起こった時、ケガをした時などなど、白血球と赤血球を中心とした体内細胞の人知れぬ活躍を描いた「細胞擬人化漫画」

## 「死ぬ瞬間—死とその過程について」キューブラー・ロス 中央公論新社

死とは、長い過程であって特定の瞬間ではない——人生の最終段階と、それにとまなう不安・怒り・恐怖・希望……。二百人にのぼる患者に寄り添い、直接聞きとった死に至る人間の心の動きを研究した画期的な書。ちょっと難しいですが・・・挑戦してもみて！

## 「電池が切れるまで—子ども病院からのメッセージ」すずらんのかい編 角川書店

長野県立こども病院（長野県・豊科町）に長期入院した子どもたちが綴った詩や作文、版画をおさめた詩画集です。親や医師、院内学級の先生たちに対する感謝、友だちへの思いやり……。病気と闘うなかで綴られた優しく力強い子どもたちの言葉を読むうちに、元気や勇気がわいてきます。子どもたちにも読めるように、すべての漢字にふりがなを付けました。親子で読める一冊です。

